

フロンティアスクール中間報告書

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 新潟県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|-----------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 豊栄市立光晴中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 3 | 4 | 5 | 1 | 13 | 27 |
| 生徒数 | 115 | 153 | 170 | 4 | 442 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--|
| 自ら学ぶ生徒を育てる学習形態の工夫 - 課題解決に有効な学習形態の工夫 - |
|--|

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2、3年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 加配教員が配置され、1クラスを2コースに分けることが可能なため。 ・ 1、2年生・英語 より活発なコミュニケーション活動を目指した指導を実践するため。 加配教員が配置され、1クラスを2コースに分けることが可能なため。 ・ 3年生（選択授業）・数学・英語 個々の習熟の差に応じた指導を実践し、基礎・基本の定着や発展的内容の学習を充実させるため。 |
|--|

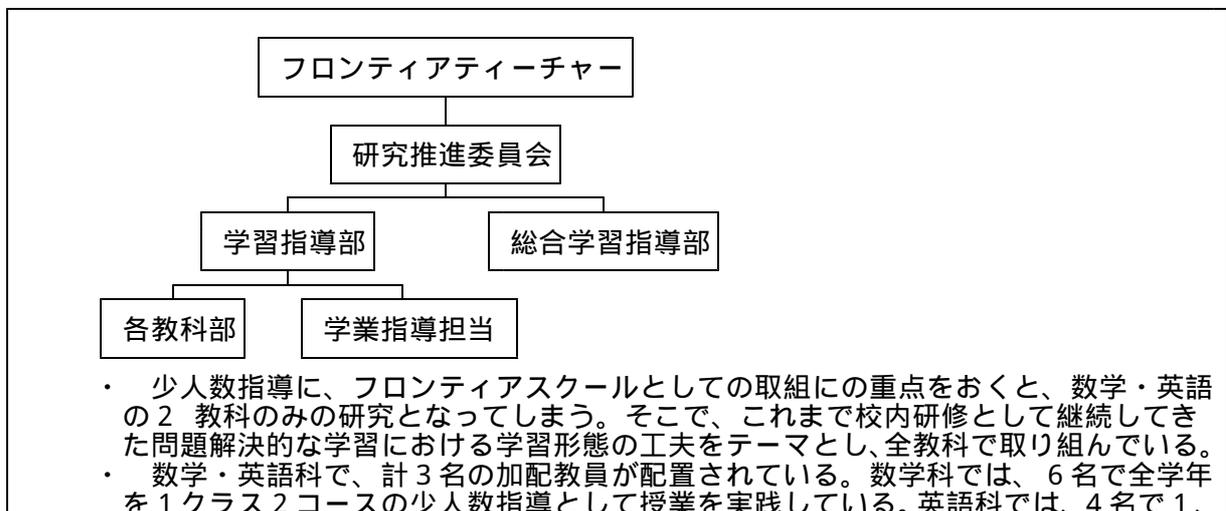
(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ 問題解決的な学習に必要な学び方を身に付けさせるために「意図的に学習形態を工夫した授業の研究」を推進する。</p> <p>研究の見通し 「問題解決的な学習を進める過程で、教師が学習形態を工夫する研修と実践を積み重ねることにより、教師の力量が向上する。その結果生徒一人一人も問題に対して主体的にかかわるようになり、各自の問題解決を通して学び方を身に付け自ら学ぶ態度を習得していくであろう。」という仮説のもと、15年度は「生徒・保護者・教員の意識改革」と、「問題解決的な学習を推進するための学習環境の整備」に重点をおいた取組を展開する。</p> <p>研究の内容・方法 「教師の力量向上」と「生徒の学力向上」を目指して、次の三つの柱を軸として取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の主体的活動を取り入れた「授業改善」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科での学習形態を工夫した授業研究の実施 ・ 少人数指導や評価・評定についての研修会の実施 ・ 「学習の手引き」を改訂し、有効な活用方法の探求 ・ 各種の調査問題による学力実態の把握と、向上を目指した実践 ・ 学習に関する意識調査の結果を受けた授業改善 ・ 係生徒の主体的活動による学習環境の整備 2 「個に応じた指導」の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導を数学と英語で実施 ・ 選択教科の多様なコース設定 ・ 夏休み・冬休みの「学習教室」の実施 |
|--------|---|

| | |
|--|---|
| | <p>3 「地域・中学校区との連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合学習における地域との連携 ・ 保護者及び地域へ向けての「フロンティアだより」の発行 ・ 葛塚小学校・豊栄高校の職員を招いての指導案検討と授業実践を通じた授業の交流 ・ 教科部内での研究授業を保護者へ公開 |
|--|---|

| | |
|--------|---|
| 平成16年度 | <p>テーマ 問題解決的な学習に必要な学び方を身に付けさせるために「意図的に学習形態を工夫した授業の研究」を推進する。</p> <p>研究の見通し 「問題解決的な学習を進める過程で、教師が学習形態を工夫する研修と実践を積むことにより、教師の力量が向上する。その結果生徒一人一人も問題に対して主体的にかかわるようになり、各自の問題解決を通して学び方を身に付け自ら学ぶ態度を習得していくであろう。」という仮説のもと、16年度は、15年度の成果と課題をふまえ、問題解決的な学習により一層重点をおいた指導を展開し、「教師の指導力向上」と「生徒の学力向上」を目指す。</p> <p>研究の内容・方法 15年度に行った実践を継続しつつ、問題解決的な学習と少人数指導の有効な活用方法を追求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の主体的活動を取り入れた「授業改善」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科での学習形態を工夫した授業研究への保護者の参加と評価の実施 ・ 少人数指導や評価・評定についての研修会の実施 ・ 「学習の手引き」をさらに改訂し、有効な活用方法の探求 ・ 各種の調査問題により学力実態を把握し、向上を目指した実践につなげる手だての工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習に関する意識調査の結果を受けた授業改善 ・ 係生徒の主体的活動による学習環境の整備 ・ リトルティーチャー（学習リーダー）育成の推進 2 「個に応じた指導」の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導を数学と英語で実施 ・ 選択教科の多様なコース設定と必修授業との連携 ・ 夏休み・冬休みの「学習教室」の実施 ・ 放課後の「学習教室」の実施 3 「地域・中学校区との連携」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合学習における地域との連携 ・ 保護者及び地域へ向けての「フロンティアだより」の発行 ・ 葛塚小学校・豊栄高校の職員を招いての指導案検討と授業実践を通じた授業の交流 ・ 小・中での9年間を見通した学習習慣の確立を目指した連携 ・ 教科部内での研究授業を保護者へ公開 ・ 家庭学習の習慣化を目指した家庭との連携 |
|--------|---|

(3) 研究推進体制



- 2 学年を 1 クラス 2 コースの少人数指導として授業を実践している。
- 1 クラス 2 コースにした目的は次の三つである。一つ目は、学級を解体しないで学習集団を編成することで、クラス及び学年の人間関係を保てることである。もう一つは時間表の編成上、出張や年休に対応しやすいことである。三つ目は、学級減による空き教室の有効活用ができることである。

平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

< 生徒の学力向上に関して >

- 係生徒の活動による学習環境の整備が図られ、学習に対する生徒・教員の意識改革につながった。
- 意識調査の『チャイム学習に取り組んでいますか』への回答で、「いつも取り組んでいる・取り組んでいる」の割合が、7月の78%～89%から1月は84%～92%に向上し、目標としていた全教科80%以上が達成された。

< 教師の指導力向上に関して >

- 学力実態の把握により、指導の重点が明確化された。
- 「学習の手引き」の活用により、実用的な改訂の方向性が明らかになった。
- 意識調査の結果を授業の評価として受け止める教師の意識改革が図られ、授業改善が進められた。
- 意識調査の『授業に満足していますか』への回答で、「いつも満足している・満足している」の割合が、7月の73%～91%から1月は80%～97%へ向上し、目標としていた全教科80%以上がかるうじて達成された。
- 学力向上の手段として、少人数指導の有効な活用方法の方向性が見えてきた。それが次の五つである
 - どちらのコースで学習しても、学習指導要領の内容が押さえられていることを確認し合う時間を設ける必要があることが分かった。
 - 教科部や学級・学年の実態に対する臨機応変な対応が必要であることが分かった。
 - コース分けにおいて、1学年英語科では人間関係に配慮するコース編成と座席の工夫が、コミュニケーション活動の活性化に大変有効であった。
 - 英語科のコミュニケーション活動においては、習熟度別よりも等質の少人数指導が適していることが分かった。
 - 学習内容や学習の段階に応じて、少人数指導における習熟度別と等質、TT指導の切り替えを指導計画に位置付ける必要があることが明らかになった。
- 選択教科授業の取り扱いを工夫することによって、必修授業との系統性を生み出すことができた。
- 長期休業中の学習会を生徒のニーズに合わせて実施したことにより、個に応じた学習支援活動が効果的に行われた。
- 小学校との授業交流を通して、学習の系統性に配慮した授業作りを行うことができた。

2. 今後の課題

< 生徒の学力向上に関して >

- 係生徒の活動の質的向上
- 家庭学習の習慣化
- 意識調査の『家庭学習を毎日していますか』の回答で「毎日している」の割合が、7月の11%から46%と向上は見られたものの、目標としていた50%には到達できなかった。

< 教師の指導力向上に関して >

- 問題解決的な学習を取り入れた授業のより一層の推進
- 授業への生徒や教師相互の評価を広く取り入れた授業改善の推進
- 生徒の実態に応じ、学習形態や少人数指導における指導体制の工夫を組み入れた指導計画の整備
- 「学習の手引き」を有効に活用するための環境整備
- 保護者・地域へのフロンティア事業に関する啓発
- 小学校・保護者との連携による9年間を通した学習習慣の確立

学力把握のための学校としての取組

- ・ N R T 学力検査
 調査の目的： 前年度の学習事項について定着の度合いを調査することで、学力の実態を探るとともに、指導の在り方を振り返る資料とする。
 実施内容： 全学年5教科について実施
 時期： 例年4月前半に実施してきた。
 15年度1・2学年分は3月半ばに実施予定
 16年度新入生は、4月前半に実施予定
- ・ 県中教研調査問題
 調査の目的： 前年度の学習事項について定着の度合いを調査することで、学力の実態を探るとともに、指導の在り方を振り返る資料とする。
 実施内容： 指定を受けた学年の教科について実施
 15年度は2学年の5教科について実施
 時期： 5月初旬の県からの指定に併せて実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 第1回豊栄・北蒲南部地域学力向上推進協議会
 日時：15年7月30日 午後2時から5時まで
 場所：豊栄市中央公民館
 対象：豊栄市・北蒲南部地域の小中学校及び教育委員会
 目的：15年度研究計画の概要説明
- ・ 15年度中間発表会
 日時：15年10月30日 午後1時40分から5時10分まで
 場所：豊栄市立光晴中学校
 対象：豊栄市・北蒲南部地域の小・中学校及び教育委員会
 下越地区の各中学校
 保護者及び地域住民
 目的：授業公開と協議会の実施
 15年度研究内容の概要説明
- ・ 第2回豊栄・北蒲南部地域学力向上推進協議会
 日時：15年12月12日 午後2時から5時10分まで
 場所：豊栄市立葛塚小学校
 対象：豊栄市・北蒲南部地域の小・中学校及び教育委員会
 目的：15年度研究のまとめ発表
 学力向上の取り組みと課題についての協議会
- ・ フロンティアだよりの発行 15年9月 5日
 16年1月15日
 2月20日(予定)
 3月20日(予定)
- ・ 「学習の手引き」16年度版を発行し、豊栄・北蒲南部地域の小・中学校と教育委員会及び、阿賀北地域の各中学校へ配布する。
 16年度新入生分については、2月18日に実施予定の入学説明会で児童・保護者に配布し、説明を行う。入学前の段階から学習への意識付けを行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無